

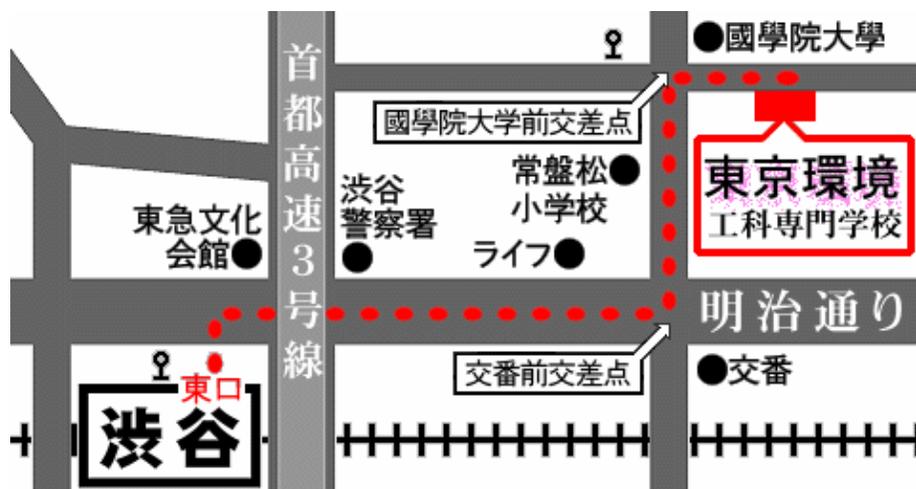
### 2007年度 東京蜘蛛談話会 4月総会例会

1. 日時 2007年4月15日(日) 10時より(開場9時30分)
2. 場所 東京環境工科専門学校 〒150-0011 東京都渋谷区東 2-5-3  
 「JR 渋谷駅」東口(東急文化会館側)より、「学 03 日赤医療センター行」バスにて約5分、「國學院大學前」下車、徒歩1分、170円
3. 連絡 当日は、東京環境工科専門学校の電話が使用できないので、緊急時には以下に連絡ください。加藤輝代子 090-7012-6458 初芝伸吾 090-6156-8378
4. その他 プロジェクター、OHP 等用意いたします。
5. 同封のはがきで、氏名、連絡先、出欠、講演の有無、講演ありの場合には演題と使用希望機材(スライド、OHP、コンピュータ)をお知らせください。また、近況をお知らせいただくと幸いです。また、はがき以外の手段で下記にご連絡いただいてもけっこうです。

〒186-0002 東京都国立市東 3-11-18-203 有限会社エコシス  
 初芝伸吾  
 mail : hatsushiba-ecosys@h8.dion.jp  
 Tel : 042-501-2651 Fax:042-501-2652

渋谷駅東口から徒歩15分です。坂道がありますので、バスを利用した方がよろしいかと思えます。

東京環境工科専門学校及びその周辺には駐車場ありません。



## 2006 年度採集観察会

1. 期 日： 第 4 回 2 月 18 日 (日)
2. 場 所： 片倉城跡公園 (東京都八王子市)
3. 集 合： J R 横浜線片倉駅改札口 10 時 30 分  
または公園入口 (管理事務所付近) に 10 時 40 分
4. 世話人： 木村知之  
京王線を利用される方は、京王片倉駅から公園まで国道 16 号沿いに歩いて 5 分程度です。

## 2007 度採集観察会

1. 期 日： 第 1 回 5 月 13 日 (日) 第 2 回 7 月 8 日 (日)  
第 3 回 10 月 14 日 (日) 第 4 回 2 月 3 日 (日)
2. 場 所： 都筑区中央公園 (神奈川県横浜市)
3. 集 合： 横浜市営地下鉄センター南駅 10 時 30 分 (公園まで徒歩 5 分)
4. 世話人： 萩本房枝  
公園内では談話会会員であることを示す名札が必要です。集合時間に遅れた方は 090-6319-0603 (萩本) まで連絡してください。

新海栄一著

ネイチャーガイド [日本のクモ] 出版される



クモ愛好家待望の写真図鑑 [日本のクモ] が文一総合出版から出版されました。ISBN: 4-8299-0174-8, A5 判で 336 ページ, 定価は 4,410 円, 東京蜘蛛談話会総会例会の会場では著者割引価格で販売されます。収録種数は 565 種, それぞれの種について, 体長, 出現期, 住居, 網型, 狩獵行動, 分布, 簡単な解説が記されており, 写真は全て生体を撮影したもので, ほとんどの種について雌雄や網など, 複数の写真が掲載されています。

## 秋山亜由子さん「くものすおやぶんとりものちょう」 の続編が出る

萩野康則

通信前々号で、本会会員秋山亜由子さんの絵本「くものすおやぶんとりものちょう」を紹介させて頂きましたが、待望のその続編がでます：

こどものとも 2007年3月号 秋山あゆ子作「くものすおやぶんほとけのさばき」

B5変判/32pp. 福音館書店 雑誌コード 03779 税込 410円

内容はよく分かりませんが(無責任!)、オニグモのあみぞう親分とハエトリグモのびよんきちが大活躍する、痛快時代劇になることは間違いないでしょう。

「とりものちょう」は幸いにして単行本化されましたが、本書もそうなる保証はありません。この機にぜひ買っておきましょう。

書誌上の発行日は3月1日ですが、2月初めから書店にならぶはずです。

ついでですが、やはり秋山亜由子さんの名作「お姫さまくもに会う」(月刊たくさんのふしぎ 1999年10月号)の前編とも言うべき作品、「お姫さまのアリの巣たんけん」(月刊たくさんのふしぎ 1997年9月号)も単行本化されました：

たくさんのふしぎ傑作集 秋山あゆ子作「お姫さまのアリの巣たんけん」

B5変判/40pp. 福音館書店 2007年1月発行 ISBN978-4-8340-2233-9 税込 1,365円

基本的にアリの本なので、クモはハエトリグモが1回出てくるだけですが、こちらも名作です。興味のあるかたはぜひ。

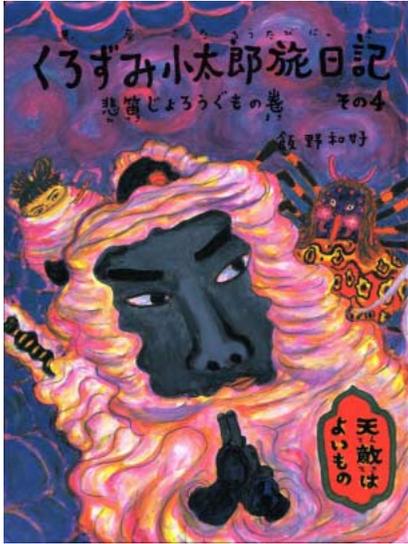
姫君の5人の友だち(けらお、ひきまる、いなごまる、いなかだち、あまびこ)のあだ名の由来も載っています。

## クモが出てくる子どもの本情報 (3) 2001-02年に出版された絵本2点・童話1点の紹介

萩野康則

今回は2001年と2002年に出版された本を3点、紹介させて頂く。いずれもクモが主人公または脇役として活躍する、物語絵本と童話である。

飯野和好(作)「くろずみ小太郎旅日記 その4 悲笛じょうろぐもの巻」



A4 判/24pp. クレヨンハウス 2001年4月発行  
ISBN978-4-906379-91-0 本体 1,165円

「くろずみ小太郎旅日記」は絵本作家飯野和好さんの人気シリーズの一つで、もともとは月刊誌「音楽広場」や「クーヨン」（いずれもクレヨンハウス）に掲載され、その後単行本化されたものである。現在までに5冊が出版されていて、本書はその4冊目である。

忍術修行の旅を続けるくろずみ（黒炭）小太郎と女忍者むかごのこはる。ある夜、こはるが笛を吹いていると、ジョロウグモの化け物が現れて、彼女を糸でからげてしまう。そこで小太郎は忍法天敵の術でクモの天敵に変身し、見事化けグモを退治する、という、ストレートな話である。読んでいて「え、もう終わりなの？」と拍子抜けするほどで、これほど真っ直ぐな筋書きも珍しい。

ストーリーもさることながら、絵がまた、実にインパクトがある。おそらく鉛筆と水彩だと思われるが、とても濃くて土臭い、一度見たら忘れられない画風である。ジョロウグモも極彩色の大迫力である。

私が最初に会った飯野さんの作品は「むかでのいしゃむかえ」（福音館書店）と「ふよどのふよこちゃん」（理論社）で、土壌動物関係の児童書をあれこれと探索して見つけたのである。そのときの印象は「うわっ、何て絵なんだ」であった。正直に言えば、好きになれない絵であった。しかしその後、多くの児童書に触れる過程で他の飯野作品を知り、作者ご本人が「ちゃんばら絵本」と呼ぶ作品群を見てから感じ方が変わる。

浪曲、落語、時代劇の要素をふんだんに取り入れた、分かりやすい筋とテンポのよい台詞に、決して綺麗ではないが、迫力満点で暖かみのある、独特な絵の組み合わせである。子どもから見ればふだん余り接することのない、珍奇なものであったに違いない。その珍奇さが新鮮で、人気シリーズになったのだろう。最初は呆気にとられてながめていた私も、何作か読み進むうちに、時代がかったストーリーとその絵に引き込まれ、楽しくなってきた。嫌いだったはずの飯野さんの絵が、気がつけばいつの間にか好きになってしまったのである。飯野作品は癖になる。

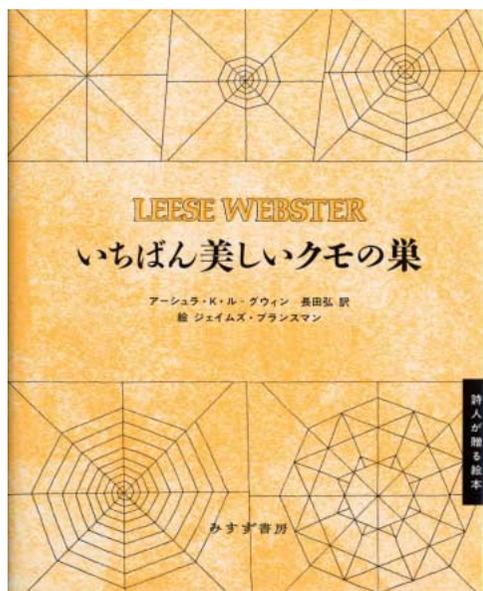
飯野さんは元々がイラストレーターなので、さまざまところに絵を描かれている。生家は秩父の農家で、このことが作風に影響しているかも知れない。本書以外の絵本作品に小学館児童出版文化賞を受賞した「ねぎぼうずのあさたろう」シリーズ（福音館書店）や、ちゃんばら絵本スタイルを確立した「八の八の小天狗」（ほるぷ出版）など、挿し絵作品に赤い鳥さし絵賞受賞作の「小さな山神ズナ姫」シリーズ（富安陽子作、偕成社）など

がある。また、現在朝日新聞朝刊に掲載中の連載小説「宿神」の挿画も飯野さんによるものである。

ところで、お化けジョロウグモを退治した天敵とは何か？ 鳴き声を出す生きものだが、鳥ではない。正解は、本書をご覧ください。

ル＝グウィン, U. K. (文)・ブランスマン, J. (絵)・長田 弘 (訳)「いちばん美しいクモの巣」

B5変型判/32pp. みすず書房 2001年12月発行 ISBN978-4-622-04743-8 本体1,800円



まず出版社名を見て、あれ？と思った。みすず書房は私のイメージでは哲学や思想を中心とした、人文科学や社会科学の専門書の出版社で、児童書には縁がないと思っていたからである。しかし、ページを繰って納得した。さすがはみすず書房、装幀も内容も格調が高い。それもそのはず、本書は詩人長田弘さんが自ら選び、自ら翻訳した珠玉の絵本群である「詩人が贈る絵本」シリーズ全14冊中の1冊なのである。

物語の主人公はリーゼ・ウェブスターという名の、廃城に住むクモである（本書の原題が"Leese Webster"）。彼女はむかし王様のいた部屋で生まれ育ったが、そこには新しい巣をかける場所がもう無い。そこである日、城の中を探し回り、王女様の部屋にたどりついた。世界一美しいクモの巣を作るのが彼女の夢。そのお気に入りの部屋で工夫を重ね、とうとう壁一面にタペストリーのような、見事な絵画を網で作り上げた。しかしリーゼはそれにも満足できない。自分の巣をきらきら輝く宝石で飾りたかったのである。

やがて廃城は美術館に生まれ変わることになり、準備作業のために王女様の部屋にも人間がやって来た。リーゼのタペストリーを発見した人間どもは、それを展示品として保存するためにガラスで覆ってしまう。そして彼女も人間に見つかり、城の外に投げ出されてしまう。

大事な巣を取り上げられ、大好きな部屋も追い出され意気消沈したリーゼ。それでも彼女は、庭の木々の間に巣を張り続ける。夜が明けた。網についた朝露は、宝石よりも星よりも明るく輝いていた。リーゼは自分が今まで作った中で、一番美しいクモの巣を見たのである。

さてこの作品、文を書いたのは「ゲド戦記」の作者、ル＝グウィンである。同作品はス

タジオジブリがアニメ化して話題になったが、映画化される以前からもファンタジーの傑作として有名だったのだ、と同僚が教えてくれた（私はこの方面には全く疎い）。そう知ると、余計に素晴らしいものに思えてくる（悪しき権威主義である）。

もちろん、長田弘さんの訳も素晴らしいのだろう。長田さんは毎日出版文化賞、桑原武夫学芸賞、講談社出版文化賞などを受賞された詩人で、詩作とエッセイで活躍されている方である。詩集に「食卓一期一会」（晶文社）など、エッセイに「読書百遍」（岩波書店）などがある。

そしてフランスマンの銅版画がまた申し分ない。エッチングはもちろんみごとであるが、背景が素晴らしい。美しいオレンジ色で、しかもある箇所はチョークで擦ったような、またある箇所は絵の具をブラシで飛ばし付けたような、白色のハイライトが実に効果的である。

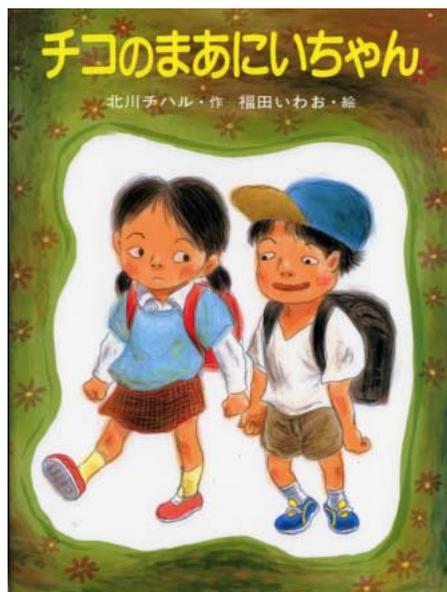
ただし、クモについては扱いが随分と小さい。作品の全画面に登場しこそすれ、その大きさはせいぜい5mm。しかも目立つのは脚だけのウミグモのような姿で、「同定」は不可能である。それでいて存在感は大きいから不思議である。

やはり世間では嫌われがちなクモを、ごく控え目に描いたのが、上品な絵本になった大きな理由かも知れない。

北川チハル（文）・福田いわお（絵）おはなしの部屋 13「チコのまあにいちゃん」  
A5判/72pp. 岩崎書店 2002年8月発行 ISBN978-4-265-02363-9 本体1,000円

池田博明さんのウェブサイトの文献紹介コーナー<<http://homepage3.nifty.com/~hispider/spiderdata.htm?#spiderbook>>にさりげなく載っていた本。

チコは小学校1年生の女の子。2年生の兄まさるがいるが、彼は障害を持っていて、妹より体が小さいし、知力も体力も不自由なところがある。このために彼はよくいじめられる。そんなときに彼を守るのは、妹のチコなのだ。



運動会の玉入れでまさるのクラスが最下位になったときも、「ビリになったん、おまえのせいや」と、体が大きいクラスのいじめっ子にランドセルを蹴られて倒れ、泣き出す。こんなときもチコが彼をかばうのである。

ある日もまた、まさるがいじめられていた。ところがこの日はチコが止めに入らない。「おにいちゃんをまもるん、もうむりや」と走り去り、帰宅してしまう。ちょっとしたすれ違いで、まさるに対して腹を立てていたからだ。しかし、やはり兄のことが

気になって外に飛び出す。まさるは泥だらけになって友だちと歩いていた。そしてその友だちからいじめっ子の弱点が判ったことを知らされる。

ここまで書けば、クモがどのような扱われ方をするか、あらかじめ察しはつくだろう。そう、いじめっ子の嫌いなクモを集めて、仕返しをするのである。クモ集めの過程で、実はまさるはクモ博士で、色々なクモの名前を知っていることが明らかになる。

作中、コガネグモが頭を上にして網にとまっているとか、採った多数個体のクモを一つの箱に入れるなど、単純な間違いもあるが、この際そんな料簡の狭いことを言わずに、素直に作品を味わいたい。

北川チハルさんは保育士を経て童話作家になられた方で、本作品で日本児童文芸家協会創作コンクール幼年部門優秀賞を受賞された。本書の他にやはり障害児を扱った作品「そらいろマフラー」（河原まり子絵）や「まほうつかいのポポちゃん」シリーズ（ひだきょうこ絵、いずれも岩崎書店）などがある。まだ若い方なので作品数は多くないが、いずれも「易しさ」ではなく「優しさ」を描いた、心温まるものばかりである。今後の作品に注目したい。

福田いわおさんは、福田岩緒さんの名前でも活躍されている（むしろそちらの名前の方が断然多い）絵本作家、童話作家であり、挿し絵画家でもある。人物の人懐こい目がとてもいい。童話作品に「夏のわすれもの」「ふたりのさっちゃん」（いずれも文研出版）など、挿し絵作品に絵本にっぽん賞を受賞した「がたたんたん」（やすいすえこ作、ひさかたチャイルド）「げんきだせ、かおりちゃん」（国松俊英作、岩崎書店）などがある。

この本を全ての子どもに読ませれば、いじめなんて無くなるのに、と夢のようなことを思わせてしまう、実にいい本である。本書を発見し、サイトに掲載するとは、さすがはヒューマニストの池田さんである。それにしてもタイトルにクモの文字が入っていないのに、どうしてクモが登場することをお知りになったのだろうか？ 池田さんの情報収集能力に脱帽である。

## 谷川明男さんが新刊書「生き物屋図鑑」に登場！

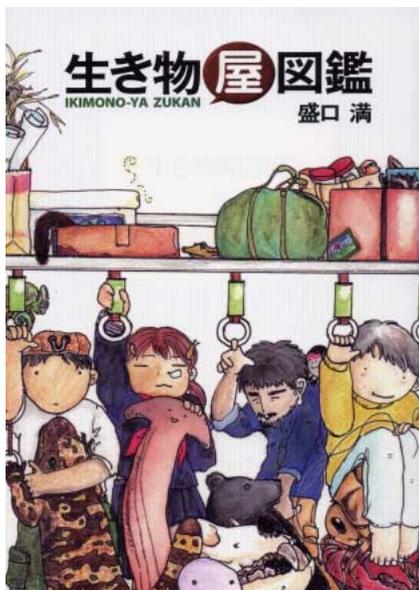
萩野康則

ゲッチョ先生こと、盛口満さんの最新刊に、谷川明男さんが登場しています。

盛口 満（著）「生き物屋図鑑」

四六判/288pp. 木魂社 2006年12月発行 ISBN978-4-87746-100-3 本体1,700円

以下、出版元の木魂社（こだましゃ）のサイト<<http://www.h4.dion.ne.jp/~kodama/>>からの引用です：

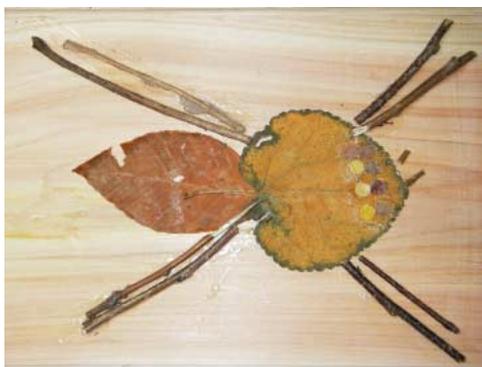


世の中には、生業を異にする 屋という色々な人たちがいるのであるが、なかでも生き物に取り憑いているのか取り憑かれているのかわからない、「生き物屋」と称される人種がいる。小社刊『骨の学校』シリーズの著者でもあるゲッチョ先生こと盛口先生はひたすら「骨」を追う「骨屋」であるけれども、生き物の種たるやそれこそ星の数ほどもある。ところが、その生き物一つ一つに「生き物屋」が張りついていると言ったら信用されるであろうか。ゲッチョ先生の「わたしの生き物屋見聞録」ともいべき本書は、一線を越えてしまった「生き物屋」のあやしい生態を、5章40アイテムで綴る抱腹のエッセイ。イラスト、図版多数。(2006.12.29)

クモ屋の項に「タニカワ先生」が出てくるのですが、谷川さんの「生態」が見事に観察され、記録・報告されています。楽しみが減りますので、これ以上詳しくは書きません。ぜひ、ご自身の目で確かめて、ニヤニヤして下さい。

本屋で立ち読みするのも良いでしょう。ただし、マイナーな出版社の書籍ですので、よほど大きな書店に行かないと、置いていないと思います(私の経験では有隣堂ルミネ横浜店にはありました)。出版から日が浅いので、図書館にもまだ入っていないものと思われます。結局、近くの書店で注文するのが一番早いかも知れません。

### あーとみゅーじあむ mini



コノハグモ  
初芝琢磨作



クモの夫婦箸置き  
初芝秋沙作

## ワスレナグモの全国分布調査結果（中間報告）

新 海 明

2006年5月から10月にかけて、ワスレナグモの分布状況を調べるためにアンケートによる全国分布調査を実施した。12月31日現在までに合計11人全国51地点からの分布情報をお寄せいただいた。ここでは、これらの結果をとりまとめた中間報告をする。

調査に協力して下さった皆さんに厚く御礼を申し上げたい。

調査地	年月日	発見の有無	調査者
秋田県 県内 10 数ヶ所	2006	-	福島彬人
埼玉県毛呂山町下川原学園台団地	2006.5.20	-	八幡明彦
埼玉県毛呂山町下川原星宮神社・延命寺	2006.5.20	-	八幡明彦
埼玉県毛呂山町市場神社	2006.5.20	-	八幡明彦
埼玉県坂戸市けやき台城西大学	2006.5.20	-	八幡明彦
埼玉県坂戸市多和目岩国神社・永源寺	2006.5.20	-	八幡明彦
埼玉県越生町越生法恩寺・越生神社	2006.5.20	-	八幡明彦
千葉県君津市折木沢東千葉演習林	2006.6.24	-	新海 明
千葉県船橋市船橋日大構内	2006.9.16	+	桑田隆生他
東京都板橋区桜川城北中央公園	2006.9.5	+	笹岡文雄
東京都板橋区小茂根稲荷神社	2006.9.5	-	笹岡文雄
東京都練馬区氷川台城北中央公園	2006.9.5	-	笹岡文雄
東京都世田谷区世田谷国士館大学	2006.9.2	-	笹岡文雄
東京都豊島区北大塚 3 丁目	2006.9.3	-	笹岡文雄
東京都小平市小平霊園	2006.5.10	+	新海 明
東京都八王子市八王子城跡	2006.6.10	-	新海 明
東京都八王子市片倉城跡	2006.5.14	-	新海 明他
東京都大島町元町火山噴火博物館	2006.8.21	-	笹岡文雄
東京都大島町元町吉谷神社前公園	2006.8.23	+	笹岡文雄
東京都大島町元町吉谷神社	2006.8.23	-	笹岡文雄
東京都大島町元町為朝神社	2006.8.23	-	笹岡文雄
東京都大島町元町潮音寺	2006.8.23	-	笹岡文雄
東京都大島町元町 4 丁目庚申塚付近	2006.8.23	+	笹岡文雄
東京都大島町野増大島橋公園	2006.8.21	-	笹岡文雄
東京都大島町野増大宮神社	2006.8.21	-	笹岡文雄
東京都大島町野増玉の浜海岸入口	2006.8.21	+	笹岡文雄
神奈川県小田原市酒匂西湘高校	2006.9.29	+	花井正美
愛知県名古屋市中区千代田 3 丁目	2006.9.3	+	小笠原幸恵
三重県鈴鹿市高塚町荒神山観音寺	2006.7.25	+	八幡明彦
三重県伊勢市朝熊町 1510	2006.7	+	橋本理市
大阪府堺市東区北野田 364	2006.5.14	-	西野真由子
大阪府富田林市藤沢台 7 丁目	2006.5.13	+	田中穂積
鳥取県岩美町牧谷山陰海岸学習館	2006.9.24	+	鶴崎展巨
島根県出雲市大社町出雲大社	2006.7.23	+	八幡明彦他
島根県出雲市大社町杵築南新光寺	2006.7.23	+	八幡明彦
島根県大田市温泉津町	2006.7.22	-	新海 明他
島根県大田市五十猛	2006.7.22	-	新海 明他
高知県高知市高知城	2006.8.11	-	新海 明
福岡県福岡市太宰府天満宮	2006.7.31	-	八幡明彦
福岡県福岡市下月隈八幡宮	2006.7.31	-	八幡明彦
福岡県朝倉市菩提寺甘木公園	2006.8.1	+	八幡明彦
大分県中津市耶馬溪宮園雲八幡宮	2006.7.31	-	八幡明彦

大分県日田市田鳥町大原八幡宮	2006.7.31	-	八幡明彦
佐賀県鹿島市古枝祐徳稲荷神社	2006.8.2~4	-	八幡明彦
佐賀県有明町辺田稲佐神社	2006.8.2~4	-	八幡明彦
佐賀県江北町佐留志堤雄神社	2006.8.2~4	-	八幡明彦
佐賀県小城市小城須賀神社	2006.8.2~4	-	八幡明彦
佐賀県北茂安町千葉八幡宮	2006.8.2~4	-	八幡明彦
佐賀県唐津市見借庚申神社	2006.8.2~4	-	八幡明彦
長崎県諫早市小豆崎町本妙寺	2006.8.2	+	八幡明彦
長崎県諫早市高城町城山公園	2006.8.2	+	八幡明彦

---

## 与那国島日記

谷川明男

2005年5月18日

那覇から与那国への直行便は、琉球エアコミューターのDHC-8という38人乗りのプロペラ機だった。しかも週に3便しかない。石垣からのJTAの飛行機は、737型ジェットで毎日運航しているのに、なんか逆のような気がする。でも、石垣からのほうが乗客が多いということなのだろう。今回の旅行の最大の目的は、2年前に馬場君が発見した網を張るコモリグモのオスを発見することである。馬場君が来た3月では早すぎ、昨年来た6月では遅すぎた。そこで今年は5月に来てみたというわけだ。うまくあたるといいのだが。

空港でレンタカーを借りると、すぐに久部良バリのポイントに下見に行った。昨年採集した場所には網がない。かわりになにやら家畜のフンがたくさんある。もともと草丈の低い草原であるが、さらに草丈が低くなっている。しかし、その少し奥の岩が地面から顔を覗かせているところで、いくつかの網を発見した。よかった、まだいるようだ。このクモは昼の間は奥に潜んでいるが、夜になると網に出てくることは去年確認した。暑い昼間に日焼けしながら苦労して採集しなくても、日差しのない夜に性別を確認しながら効率よく採ることができる。コモリグモの採集は夜にして、島をぐるりと回って宿に入った。島中あちらこちらで名のわからないセミやイワサキクサゼミが鳴いていた。夕食後、暗くなるのをまっていると、前線のために雨が降ってきてしまった。勝負は明日にして早めに寝ることにした。

5月19日

曇ってはいるが雨は上がっている。まず



網を張るコモリグモ



網を張るコモリグモのいる環境

のうをつけているものもいる。小さな幼体だった。もっと早く来なくてはならないようシロも6個体の飼育で4個体が雌、2個体すると、林中で一斉にセミが鳴き出した。またしばらく貝探しをしたが、ついに見つ



草原にいたヤモリ

イランダ林道に新種の貝を採集に行った。ピロウの落葉の裏にいる小さな貝なのだが、なかなか見つからない。しかし、ピロウの葉の間からは、クモもけっこう出てくる。大きなヤマシログモ。クロヤマシログモだろうか。こげ茶色に薄い色の筋が入ったなかなか渋い色のハエトリ。オスはこげ茶にオレンジ色の筋が入り、腕の途中が白い派手なやつだ。カニミジグモやカマスグモもいる。ついに雨が降ってきた。ぱらぱらしていたのがかなりの雨脚になった。東屋で雨宿りをし、雨脚が弱くなるのを待った。しばらくすると雨は上がったが、かなり強い雨だったので、林内はびしょびしょになってしまった。日差しがないので、網張りコモリの雄捜索に行くことにした。昨年までは久部良バリでしか見ていなかったが、ほかの草地にはいないだろうか。祖納の集落の西側には広大な墓地が広がっており、墓と墓の間は草地になっている。時折雨がぱらつく中、しばらく探すとコモリの網があった。すこし墓地の奥のほうに入ったところである。すると次々に見つかる。かなりの個体数だ。久部良バリだけに一時的に発生している偶産種かもしれないとの疑いを持っていたが、他の場所にも生息していることがわかった。日差しがなくて楽なので、巣の奥に隠れているクモを見つけ出して性別を確認していった。雌ばかりだ。卵の巣もたくさんある。子守中の雌も見つけた。ずいぶんたくさんの個体を発見したが、ついに雄は見つからなかつた。4月か。子グモがけっこうたくさんいたので、10個体を採集し、飼育することにした。イシガキアオグロハが雄という結果であったので、何とかなるだろう。15時くらいに再びイランダのポイントに貝を探しにもどった。佐々木さんに電話をして尋ねると、イワサキヒメハルゼミだということだ。ちょっと静かめのクマゼミみたいだ。けることはできなかった。



つついても逃げない  
イワサキクサゼミ



ヘリジロハシリグモ（ススグロ型）



ゴキブリを捕食中の  
ヤマシログモの一種

夜は久部良バリヘコモリ雄の搜索に出た。祖納の墓場に比べると網がとても少ない。やっといくつかの網を見つけたが、みな雌であった。やはり幼体の飼育にけるしかないようだ。コモリ搜索の間にコガネグモダマシの雄とカニグモを見つけた。また、草原にヤモリがいた。森や家の中以外で見るのは初めてだ。

5月20日

今日はまず久部良岳のふもとへ行った。昨夜の雨がまだ乾ききっておらず、ピーティングをすると網がぬれてしまうので採集がやりにくい。しかも、また雨が降ってきた。雨は徐々に強くなり、ついに昨日と同じ土砂降りになった。またもや大休止である。数時間後、雨はやんだが、また林内はびしょぬれだ。水田にヘリジロハシリグモの写真を撮りに行くことにした。途中、立神岩のところまでソテツの雄花の写真を撮っていると、イワサキクサゼミがすぐ目の前のアダンの葉で鳴いていた。ずいぶん図太いムシだ。指で突っついたらちょっと鳴きやんだが、またすぐに鳴きはじめた。ここにはこのムシの捕食者はいないのか？中央農業用水水源わきの水田で探すと、すぐにヘリジロハシリグモがいた。ススグロ型とヘリジロ型との両方の写真を撮ることができた。と、また雨が降ってきた。島の東端まで移動し、景色で軽く採集をした。ほとんど期待をしていないクモだ。宿に戻るころには薄日が差し始気象情報では明日は曇りときどき雨だそう、今、沖縄は梅雨なのだ。

夜は満田原森林公園へ行った。うっすらに入っただけでカメがいた。ミナミイシガコウモリがばさばさ飛んだり、木の実を落鳴き声が聞こえない。ヒメボタルが少数飛ノシマゴミグモが一番多い。次はヘリジロている。タニカワアシナガグモの幼体は葉でいる。ツツゲハウグモを3個体発見したゲハウグモが捕食中の餌メニューのデー

5月21日

天気予報はいいほうにはずれ、とてもよいうことを意味する。今日の初めは、昨日入るとまだ下ばえはぬれている。ピーティか徘徊性のクモを採集しているうちに、車だ。小さな島なので、少ないポイントに入ゅうをうろろしている。若い人はぜんぜしかし、ここにも先客の車が一台止まってゴミグモの網が張られており、まだ壊れている林内でゆっくりと楽しませてもらおもの仲間が巣を作っていた。八重山のミヤ回採集したのも雌1個体だけである。雌雄



ゴキブリを捕食中の  
ヤマシログモの一種



夜、糸にぶら下がっているハエトリグモの一種



ガを捕食中のツツゲハウグモ

を眺めながら雨のやむのを待った。雨がやんでから牧場脇の荒地なかつたのだが、見たことのない赤いアリグモが採れた。きれいめたが、夕食を終える頃からまた雲が厚くなり始めた。テレビのうだ。今回はほんとに天気に恵まれない。まあしかたがないだろ

と月が見えている。天気予報が外れてくれることを祈ろう。林内メか。もう少しで踏みつけてしまうところだった。頭上ではオオとしたり、キーキーと鳴き交わしたりとうるさい。フクロウ類のんでいる。雨あがりなのできれいな網が多い。個体数ではミナミオニグモか。と、クロヤマシログモに似たクモがゴキブリを食べ間に小さな網を張っており、大きなハエトリは葉からぶら下がが、そのうち1個体が捕食中で、獲物はガであった。これでツツ夕は3つになったが、3つともガである。

い天気になった。しかし、それは日差しが強烈で、すごく暑いと土砂降りの雨で採集できなかった久部良岳の麓に行った。林内にグがままならないので、地面中心の見つけどりにした。いくつやらバイクやらで採集屋が次々とやってくる。混んでいるところが集中してしまうようだ。私を含め、中高年の採集屋がそこらじん見ない。人ごみは嫌いなので、満田原森林公園へ場所を変えた。いた。でも、私が入ろうとしていた道の入り口にはミナミノシマいなかったので、ここに入ったのではないようだ。では、空いてう。林に入るとすぐに、支柱にまきつけたロープの隙間にミヤググモが内地のものと同種かどうかは、いまだ未解決の問題だ。今十分な数の標本がほしいところだ。林内に作られた東屋にはオニ

グモが3個体おり、うち1個体は卵のうを1つ持っていた。また、1個体は幼体であったが、その網にはミナミノアカイソウロウグモがいそうろうしていた。成体の雌はテレビ出演のため、一緒に関東まで来てもらった。昼食後は宇良部岳の麓にある人面岩方面へ場所を移した。林内に入ってすぐ、ヤエヤマトタテグモを見つけた。そのすぐ近くで、なにやら高貴なかんじの卵のうを発見した。さぞかし名のあ  
るクモの卵のうに違いない。しかし、卵のうの近くにクモの姿はなかった。周辺の植物をピーティングしてみると、なんとワクドツキジグモ！ の形をした土の塊が落ちてきただけだった。幼体が出のうすればわかるか。よく晴れるとやはり暑い。少し景色を楽しんでから夜に備えて宿に戻ることにした。途中、アダンの群落の向こうでアマサギが集団でくつろいでいる。このサギはとても敏感で、なかなかくつろいでいる姿を撮影することができない。アダンに隠れながら近づき、なんとか撮影することができた。それでもこちらに注意を向けている個体があった。

夜は再び満田原森林公園に出かけ、昨日の晩とは違うコースを歩いた。歩き始めてすぐにツツゲホウグモがいた。ガを捕食中だ。これで、4例目になった。ツツゲホウグモはもう2個体いたが、そちらはなにも捕獲していなかった。その先で、アリを捕食中のヒシガタグモがいた。さらにその先では、カニミジグモがアリを捕食中だった。今夜はどうもアリ食に縁があるようだ。林内にはヒメボタルが飛び、頭上ではオオコオモリが騒いでいる。そんな与那国最後の夜であった。

東京蜘蛛談話会の会費は、一般 3800 円、学生 2000 円です。  
郵便振替口座 00170-8-74885 東京蜘蛛談話会へお願いします。  
会計担当：安田明雄 231-0861 横浜市中区元町 5-219 (TEL : 045-641-0763 )  
E-mail : kobato@gol.com

入退会は：  
事務局 初芝伸吾 186-0002 東京都国立市東 3-11-18-203 (有)エコシス  
E-mail : hatsushiba-ecosys@h8.dion.ne.jp

通信原稿投稿先：  
通信担当 谷川明男 247-0007 横浜市栄区小菅ヶ谷 1-4-2-1416  
E-mail : dp7a-tnkw@j.asahi-net.or.jp

談話会通信次号の原稿締め切りは 2007 年 4 月末日です。ご投稿お待ちしております。

KISHIDAIA 原稿投稿先：  
会誌担当 池田博明 258-0018 足柄上郡大井町金手 1099